

記憶と教訓 各地へつなぐ



「1・17希望の灯り」から火を移す参加者ら＝8日午後、神戸市中央区加納町6（撮影・長嶺麻子）

阪神・淡路大震災から28年を迎えるのを前に、犠牲者を悼むガス灯「1・17希望の灯り」の分灯式が8日、神戸市中央区の東遊園地で始まった。移された火は、各地で開かれる追悼行事などで記憶と教訓の継承に役立てられる。

兵庫県内の中学校など約30団体が参加した。NPO法人「阪神淡路大震災1・17希望の灯り（HAND S）」の藤本真一代表理事は、「慰霊語りかけた。」

その後、参加者は、ガス灯からろうそく、ろうそくかららんたんへと火を移し、受け取った。加古川市立神吉中学校2年の安河内悠真さん（14）は「初めてこの場に来て、地震の恐ろしさがかつた気がする。」



梶原凜子さん（17）は「亡くなった方一人一人に人生があったということ、学校で伝えたい」と話した。希望の灯りは2000年、全国から火を集めてともされ、分灯は01年から続く。今年には県内外の約50団体から申し込みがあり、順次分灯される。（上田勇紀）

「1・17希望の灯り」分灯開始 神戸

①阪神・淡路大震災はいつ起きましたか、「阪神・淡路大震災」でキーワード検索し、空欄を埋めましょう

年 月 日 午前 時 分

②「1・17希望の灯（あかり）」はどんな施設ですか

③分灯された火はどこで使われますか

④「慰霊と復興のモニュメント」の瞑想（めいそう）空間には何がかかげられていますか。「慰霊と復興のモニュメント」でキーワード検索しましょう

⑤この記事の感想を書きましょう

NIEワークシート／小学校高学年～中学校

なまえ【 】